

『 思いはかること 』

園長 三宅悦子

5月の陽射しとは思えないような晴天の中、頭にいっぱい汗をかきながら園庭で夢中になって遊んでいる子ども達。実って落ちた梅の実を握りしめている子、花壇のあちらこちらをめぐりダンゴ虫を集めてくる子、こおりおにやドロケイをして園庭を走り回っている子ども達。また、うん梯や鉄棒に挑戦して手のひらのマメを誇らしげに見つめている子。砂場では、レストランごっこや山づくり、泥水遊び泥団子作りが繰り広げられ、砂・土・水の触感を楽しんでいる子ども達。縄跳びの縄を電車にして一緒につながっている子ども達もいます。自由遊びの時間は、外遊びが好きな子ども達は外で過ごし、部屋遊びが好きな子ども達は部屋でままごとやお店屋さん、プラレール、ブロック、大型積み木を駆使して遊びの世界を広げています。好きな事をして遊ぶ空間と時間が確保されているということが、今まで以上にとっても大切な経験となって来ました。

今の時代、0歳の子どもから手に触れる木のおもちゃや、布の絵本よりもずっと刺激的な光を放つスマートフォン。指で横にスライドする事はお母さんもお姉ちゃんもお兄ちゃんもしているの、よく知っています。そこから発せられる画像の動き、音、声、不思議な世界が広がります。そこでスマートフォンを持たせていると静かにしているわが子に、つつい子守をさせていませんか。

歩きながらもスマートフォン、自転車に乗りながらもスマートフォン。片手に収まるこの小さなおもちゃから、人のつながりや、人の評判、地図、料金、調べものまでなんでも知ることが出来ます。そして遊び相手にもなってくれます。私達が心奪われてしまうのは、どうしようもないのかも知れません。しかし、子ども達はどうでしょう。外遊びが少なくなった、公園デビューなんて「ないない」という現在、今まで就園までに直接経験できていた事ができなかったり、生活経験が広がっていなかったりという子ども達の様子に直面しています。また、一対一の関わり方はできるけども、集団の中で周囲に対応できない子ども達の困り感も受け止めていかななくてはなりません。

基本、私達は周囲の人達と一緒に汗を流したり、協力して作ったり、一緒に走ったり、遊んだりといった事に達成感や充実感、心地良さを覚える感覚を持っています。中には他の人と一緒に居る事が苦痛という人もいますかも知れません。しかし、その中でも友達意識や、クラス意識は、育っていくという経験をして来ました。家族や兄弟姉妹に沢山助けられ、今、ここに居る事を経験しているからです。

情報をいつでも自分の手の中に握る事ができる時代、私達は今まで以上に自分第一主義になってしまうのではないかとという危惧があります。個人情報保護法が施行されて12年、今年その改正が行われましたが、個人を守るよりも利用して不正を行う事件が深刻化している現在、生活経験が広がっていない私達が、いろいろな場面を想定して、相手の立場に立って考え、行動することが難しくなって来ているのではないのでしょうか。

年度初めにお願いしました写真撮影の事も、その一つかと思えます。みんなで撮影する事は楽しい事という考え方もありますが、その中には事情があって「写りたくない」という思いがあっても「皆で撮影しましょう」と言われた時に「私だけ写さないで下さい。」とは、勇気を振り絞っても言えないかもしれない。全体がみんなのために写真を撮りましょうの雰囲気の中で、事情を話す事もできないところに追い込まれるかも知れません。そこまで、生活経験の中で他者を思いやる事ができるかどうか。それは、子ども達だけでなく、私達にも問われている事なのではないのでしょうか。

様々な立場や、様々な経験の中で個人が抱えてきた事を、想像する事もできない。思いやる事もできない。対話が成り立たない。力で言うことをきかせようとする。そのような人とのつながり方では、私達は育って行けません。ここで、私達が、思いはかる事ができないような経験によって、様々な事情がある事を、受け止められる一人ひとりでありたいと願います。

1学期も半分過ぎてしまいました。暑さに向かう後半、皆様のご協力を宜しくお願い致します。